

氏名	にも包括協議の方向性について	ガイドブックの作成について	密着アドバイザーについて	その他(ご意見、気付いたことなど)
田中 慎吾				
古俣 孝浩	長い目で見つめながら、今できていることを見える化することや、包括実現に向けたロードマップを作っていくことがまずの所で進めていくことができるのではないかと感じています。	ガイドブックの重要性はありますが、包括的視点だととても大変かもしれないです。作成を今後目指していきながらも近くのところでは行きやすいものを進めていくのも良いかと思えます。	地域包括実現に向けては広域的視点と密着視点の協同がより必要になってくるかと思うのでアドバイザーはいたほうが良いと思います。必要になるようでしたらご協力できればと思っています。	
蓮沼 和音	沖倉先生の「どの部会でも相談先の充実や連携が課題としてあがっている」という言葉に、ハッとしました。確かにずっと連携や顔の見える関係作りを目指しているところがあるような気がします。隅々まで、末端までの連携は難しくても、ある程度顔のつながる中で連携できている部分もあるので、なんでこんなにも連携が不足しているように感じられるのか、どこが特に不足しているのかと思えました。もう少し区内のネットワークや会議体などについて整理し、どんな連携・ネットワークが不足しているのか考えてみて良いように感じました。	広域アドバイザーの山本さんからのコメントですである「せいほれんガイド」で十分では？という言葉に少なからず同意しました。今ある良いツールをより生かし、普及する為の方法を考えるのも一つかと。	密着アドバイザーが具体的にどんなことをやるのかが、今ひとつピンとこないのですが、せっかく広域アドバイザーをお願いしてきているタイミングなので、この機に密着アドバイザーもどなたかをお願いすることで、より広域アドバイザーからのサポートを豊島区の中で形にしていけるのではないかなと思いました。	今回、当事者の立場で山井さんに参加していただきましたが、山井さんの記入されたシートにもあったように、かなり難しい内容だったのではと感じます。もちろん、事前のこちらでのお伝えの仕方でもっと理解できるような準備もできたかもしれませんが、「にも包括」というテーマを検討する特性上、用語や制度施策に対する知識がないと、話している内容を理解するのも難しいのではないかと思います。とはいえ、当事者は専門家ではないので、知識を持たないといけないということではないと思います。当事者委員に対して、何を考え答えてほしいのか、参加する際にあらかじめ今回の部会では特にここについて意見を聞きたいので考えながら参加していただきたい、等かなり絞り込んだ形であらかじめ伝えていただけるとより良い意見をいただけるのではないかと考えました。
中野 学	今現在各自が関わっていることを、よりパワーアップもしくはバージョンアップさせ、その強みを引き出し、それを分かりやすくするために内外に展開していくことが必要。それが、会や人につながっていく	より完結したものをよりシンプルに。どこでも街中で受け取れるものに。	必要だと思う。	もしわかれれば精神疾患になりやすい特徴をデータ化して、その後パンフなどを活用。SNSでも何でもいいので、アピールをして、受け入れてくれる所につなげることが肝要。
内田 暁彦	区民の人がどこに相談すれば良いかをはっきりとさせること。その上でどの様に問題を解決していくのかの方法として考える必要があるのでは？	区民向けでは上記(左記)の様に相談窓口がはっきりしていれば良いと思う。区報で良いのでは？区内の福祉サービスについての情報は公開して欲しい。ページがあまり多くても見ないので、やってもそこそこで。	実際のイメージがわからないので何とも言えません。でもこういうのは一人じゃなく2人3人ぐらいのチームが良いのでは？	問題を解決するためのコーディネートを一かにしていくかのシステムを作ること。そのシステムをできる限りシンプルにするようにできれば良いと思います。
小澤 元美	・会議・連絡会等の構成、つながりを整理する。包括支援部会(協議の場)と相談支援部会、個別事例の検討の場(拠点PT)など。既になされているのかもしれませんが・。将来的なビジョンの確認(誰にでも対応した「にも包括」に向かって・)、ロードマップがあると良いと感じました。	・色々な部署・会議等で同じような取組がなされている、と言う声が聞かれました。どういった使用方を想定するのかを考え、実際に使われるもができてると良いと思います。 ・会議の最後に意見が上がっていましたが、「入院患者様の退院支援(地域移行)をターゲットに作製」賛成です。入院者訪問支援事業も始まるのでタイミングも良いと感じます。	島区の特徴、強みを活かしたシステム作りのためには、密着ADが広域ADと共に取り組んでいただけたらとより実務的な議論や個別の課題から地域課題の抽出へと進んで行くのではないかと思います。	・包括支援部会が協議の場と位置づけられ、各委員が遠慮なく意見が言える場となっていることが強みだと感じます。必要時、オブザーバー参加も加え色々な立場の方の率直な意見が出されるよう次年度も継続して頂きたいです。 ・高齢福祉部門の方のなど関係部署の方の参加や施策・取組について情報交換するなどの機会があると相互理解、連携促進に繋がると感じます。
山井 美佐子	よくわかりません。	あれば助かる人はいると思うので作れたらいいと思います。	すみません。そんな話をした、という記憶がありません。	あの場所に私がいても役立つとは思えません。それでも参加していいものではないでしょうか？教えてください。
漆山 友美子	理念、概念の共通理解ができたところで、連携と地域理解を進めるために次に何をやるかが重要だと思います。部会以外にワーキングなどで課題の整理と優先順位をつけて実行することが必要でしょうか。 「まずはお互いを知ることから」という話が出ましたが、支援者でもあまり知らない社会資源もありますし、住民はさらに「知らない」人が多いと思います。保健所の講演会でも病気の知識以外に、使える制度があるのを知りたいという意見があがっており、制度やサービスについての情報提供や繋がってもらいやすくする工夫が必要だと感じます。	目的が明確であれば作成も良いと思いますが、成果物を急がなくても良いと思います。既存のせいほれんガイドブックを活用する案には賛成です。		にも包括はその範囲が広く、漠然としてしまいがちなので協議の進め方が難しいですが、既存のものも繋げること、新たに作り上げる必要性のあること、保健所としても検討していきたいと思っています。
竹村 敏	確かに検討対象となる範囲が広いので、具体的な成果や結論を出す事を急がないで、ゆっくりと時間をかけて部員の共有化出来る点を地道に見つけ模索しながら、皆さんで意識を深めていくやり方がよろしいのではないかと思います。	たたき台がある事は部会検討の助けになりますね。 他地域で作製実績のあるガイドブックを参考にするのもよろしいかと思います。 配付閲覧対象に関して、学校児達に配れるモノなのか、町会回覧で地域に読んでもらうモノなのか、区の施設に置いて興味ある人に関覧いただくモノなのか、によって記述内容の深さ軽さも考える必要も感じました。(紙媒体だけではなくネット閲覧も含め)	専門的レベルが高く、実績経験の豊富な、地域密着のアドバイザーは早く多く必要です。	地域が理解し、地域が求め、地域の立場に基づいたという基本理念を皆さんで再認識共有したいと思いました。
佐藤 幸子	この一年間参加し、少しずつ形が見えてきた部分があるものの、もう一歩、この「豊島区」でどのような地域を目指すのか何が不足し何が強みなのか明確になっていないように感じる。今一度地域の資源を棚卸する必要があると思われる。	「ガイドブック」という形にこだわることなく、資源の整理や不足している資源の創出についての議論の過程で、形態はガイドブックになるのか、リーフレットになるのか、マップになるのかを決めて行けばよいのではないかと。せいほれんガイドブックも活用も良い方法だと思う。	部会の回数を見ると、実際に「にも包括」を推進していくコアとなるメンバーが必要と思われる。	先日、区内の当事者メンバーが参加する「暮らしのさずなを考える会」という豊島区の地域ミーティングに参加する機会に恵まれました。主催者に何うと、平成13年頃からやっているということ、まさに地域で暮らし当事者と支援者、関係機関が車座になって同じテーマについて学び、それぞれの思いや意見を話すという会でした。改めて、これも一つの豊島区の貴重な「資源」だと感じました。地域のインフォーマルな資源も含めて整理をし今の豊島区に足りないことや目指すべき方向を確認できれば良いかと感じました。